

# 欲望といふこと

ガソリン価格の高騰が続いています。灯油も電気代もすべてのものが値上がり気味です。生活が日々苦しくなり、仕事も最低賃金で長時間労働が普通のようになっています。便利になつた時代は様々の矛盾を抱えています。しかし問題は矛盾を抱えながらも、矛盾を矛盾と見せなくなつてきています。いや見せずらくなつているシステムが出来上がっています。

私たちの生活ぶりはおかしなことがたくさんあります。あるときはガソリン価格が低下したときにはこのときとばかりレジマー、ドライブに走り、世界中の食材を集め、たらふく食べる。おかしなことです。今日、新聞では北海道ミシランガイドなるものが掲載されました。食のブランド店であります。もうすでにミシランツアーガが計画されているといいます。三つ星がついた店は決して安くはないのですが、この不景気な時代にも殺到するのでしょうか。まさに支離滅裂といふ言葉にふさわしいことです。地方の時代と言いながら、一極集中は進み、地産地消と言いながら、流通は、世界中から集まります。この日本の狭い国土に、新幹線など鉄道と道路が整備され、車と鉄道が売り上げの競争をいたします。今、家電メーカーが大きな赤字決算を出しています。人員の削減等も為されるようです。テレビの売り上げなどが急激な落ち込みに見舞われています。ほんの数年前まで国と（総務省など）デジタル化を喧伝し誰もが大型薄型液晶テレビに嫌でも買い換え、大きな利益をメーカーは出したはずですから。経済の素人の私が見てましても今売れなくなつても、それは当たり前だと思うのですが・・・私たちの欲望は無制限、無分別この上ないものであります。しかもこの欲望を今は押さえ込むよりも、欲望の顔をしないで理性的な顔さえいたします。個人的にも、国家的にも欲望は制限するよりも主張し実現した方が勝ちと言う時代に生きているようです。欲望が制限できない品性のない時代は多数での利害の調整が難しいということでしょう。この狭い島国に生きている私たちは知恵を働かせ誰もがのんびりと、肩を寄せ合い安樂に暮らしていたはずなのですが時代はすっかりと変わつてしまつたようです。他を蹴落としてでも、「私」のエゴの満足ならば何でもしてしまいます。しかし現実には仙台では「復興ビジネス」として空前のバブル経済に沸いています。

他の悲しみさえも経済効果としてしか見られないのが今の私たちの性なのかも知れません。テレビでも新聞でも被災者の良いことづくめの感動物語ばかりです。しかし私たちは知恵見え隠れしているように思えてなりません。人間の欲望はきりがないものです。仏教は人間の内面をえぐり出すことです。私たちの人間の悲しさとは、そのことさえも隠そう、取り繕うと見え隠れしているように思えてなりません。人間の欲望はきりがないものです。仏教は人間の内面をえぐり出すことです。私たちの人間の悲しさとは、そのことさえも隠そう、取り繕うとすることなのです。お寺に来られたときや、仏壇の前に座つたときには、自らの姿を隠さず告白する 것입니다。それは仏教の教えに照らされ、気づいていく世界です。自分探しなどと言いますが本当の「私」との出会いは、辛いことなのかもしません。しかし私が私であるために、大切なことあります。